



びわ湖 管理情報トピックス

大雨洪水シーズン到来



琵琶湖に流れ込む河川は大小460本ほどありますが、琵琶湖から流れ出る河川は瀬田川1本だけです。かつては大雨が降ると琵琶湖の水位が上昇し、琵琶湖周辺の土地の低いところが水に浸かっていました(写真右)。現在では、琵琶湖沿岸の土地の低いところに築造した湖岸堤(50.4km)、琵琶湖に流れ込む河川・水路に設置した水門・樋門(137か所)、内陸側の水を排水するために設置したポンプ場(14か所)などによって、琵琶湖沿岸の洪水による浸水被害の軽減を図っています。

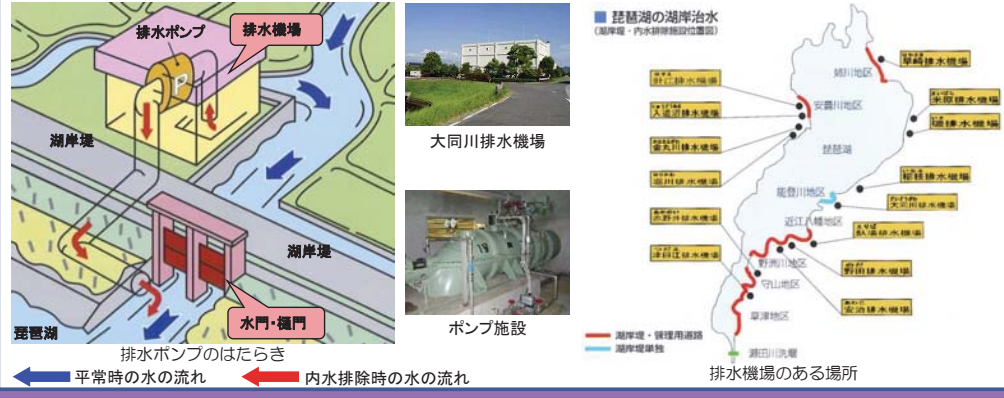
大雨が降って琵琶湖の水が内陸側へ逆流を始めるような場合には、「内水排除(ないすいはいじょ)」という操作を行います。



家が浸かる被害！
(明治29年9月)

内水排除操作とは？

琵琶湖の水位が上昇して河川の水位に近づくと河川の水の勢いが弱まるので、排水ポンプを運転して様子を見ながら水門等を閉めていきます。琵琶湖の水が内陸側へ逆流を始めると水門等を全閉し、排水ポンプをフル稼働して内陸側の水を強制的に排水します。こうすることで、内陸側の水位が下がり、低い土地の浸水時間が短縮され被害を軽減することができます。これらの一連の操作を内水排除操作といいます。



排水ポンプを動かしても一時的に水に浸かります

排水ポンプは、稲の被害を軽減することを目的とした能力となっています。強い雨が降っているときには、ポンプ運転をしてもすぐに効果が出ないので、しばらくの間は水に浸かることになります。



ストップ！不法投棄

琵琶湖周辺では不法投棄があつとを絶ちません。生態系への悪影響や水質悪化を防ぎ琵琶湖の豊かな自然を守りましょう。



不法投棄は犯罪です！

ゴミや産業廃棄物を投棄している現場を見かけたら警察又は下記にご連絡ください。
水資源機構 琵琶湖開発総合管理所
TEL 077-574-0680



！厳しい罰則！

【懲役】
5年以下
【罰金】

法人：最大3億円
個人：最大1千万円



びわこつみしん

琵琶湖の管理情報や地域情報を紹介する情報誌です
発行 独立行政法人水資源機構
琵琶湖開発総合管理所
2017年 夏号
(通巻第24号)



ホタル飛び交うまち 守山市



【ゲンジボタル】

守山は古くからゲンジボタル(守山ボタル)の群生地として知られており、大正13年には天然記念物の指定地第1号となりました。守山のゲンジボタルは、他地域のゲンジボタルよりも大きく、より明るかったと言われていました。戦後の環境変化等により、一時は絶滅した守山のゲンジボタルですが、その後の守山市による「ほたるのよみがえるまちづくり事業」の取り組みにより、再び多くの河川でホタルが飛ぶようになりました。

平成12年には「守山市ほたる条例」を制定し、現在も「ほたるの住むまちふるさと守山」を基本理念として、ホタルの保護に向けたいろいろな取り組みを行っています。

ホタルの飛翔シーズンに、守山市を訪れてみてはいかがでしょうか。

毎年人気のホタルイベント

『守山ほたるパーク&ウォーク』

毎年5月下旬に開催されている人気のイベントです。今年は5月20日～28日に開催されました。ほたるエコバスに乗って巡るホタル観賞の他、期間中はいろいろな催しが行われています。



【ほたるエコバス乗り場(JR守山駅)】

■問合せ先
認定NPO法人 びわこ豊穰の郷 077-583-8686

ホタルのことがよくわかる資料館

『守山市 ほたるの森資料館』

ホタルに関する資料展示の他に、ホタルの飛翔シーズンには資料館周辺の森において幻想的な雰囲気を楽しむことができます。

- 開館時間／午前9時～午後4時30分
- 休館日／毎週火曜日
祝祭日の翌日(日曜日は除く)
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料／無料
- 交通／JR守山駅から徒歩25分、車で5分
近江鉄道バス 市民ホール前下車徒歩すぐ



守山の街中で見られるホタル

守山の街中にはホタルをかたどったマンホールやホタルをモチーフとした街灯などがあり、日頃からホタルを身近に感じることが出来ます。



【ホタルのマンホール】



【ホタルの街灯】

琵琶湖周辺の巨木・名木巡り



琵琶湖周辺の巨木・名木と言われる木を集めてみました。
いずれも歴史のある木ですので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

①森神社のタブノキ（高島市 新旭町）

タブノキは暖地性(だんちせい)植物で、このあたりでは大変珍しく貴重な存在と考えられています。
幹周5.9mのこの巨木は、推定樹齢1200年(奈良時代末期)と言われています。
現在、このタブノキは、地域の神木として崇(あが)められ、新旭町の名木の一つに数えられています。



②和田神社のイチョウ（大津市 木下町）

和田神社のイチョウは、滋賀県下でも例がないほどの大きなもので、幹周4.4m、樹高24m、樹齢600年(推定)以上とみられています。
立派なこのイチョウは、和田神社のご神木となっており、関ヶ原の合戦後、徳川家康に敗れ、捕らえられた石田三成が京へ護送される際にこの木につながれ、休息をとったと言われているとされています。
昭和51年12月に大津市保護樹木に、昭和53年2月には大津市の指定文化財となり、大切に守られています。



③矢橋のイチョウ（草津市 矢橋町）

矢橋(やばせ)は、昔から草津と大津を結ぶ帆船の港としてにぎわい、近江八景の一つ「矢橋の帰帆」でも知られています。
イチョウは幹に水分が多いことから、港の蔵宿や旅宿の防火を目的として植えられたと伝えられています。また、湖上からの目標木としての役割も果たしています。
幹周3.4m、樹高24m、樹齢は推定250年。



④一里塚のエノキ（守山市 今宿町）

今宿一里塚は、五街道の一つである中仙道の一里塚で、江戸日本橋から草津宿までに129ヶ所あった一里塚の128番目にあたります。
一里塚は江戸幕府により整備されたもので、一里(約4km)ごとに土を高く盛り上げた塚を築き、エノキ(榎)や松を植えて通行人の目安としたものです。
幹周3m、樹高14m、樹齢は推定150年。



⑥青根天満宮のスギ（近江八幡市 船木町）

青根天満宮は、鶴翼山(かくよくさん 通称:八幡山)の麓にあり、菅原道真公を祀っているとのこと。比較的緩やかな石段の参道を上ると正面に拝殿があり、その左に大杉がそびえています。
幹周5.5m、樹高34m、樹齢は推定400年。



⑤高木神社のナギ（野洲市 八夫）

御神木として祀られる事が多いナギの木は、『凧(なぎ)』や『和(なぎ)』に通じることから、特に船乗り信仰され、この木の葉を鏡の裏等に秘め、災難避けとして使われたと言われている。
幹周1.7m、樹高17m、樹齢は推定200年。



⑩應昌寺のシラカシ（長浜市 西浅井町）

その昔、織田信長が越前の朝倉氏を攻めるため、軍勢を率いて應昌寺(おうしょうじ)の門前を通行の折、突然落馬、それは門前の古木のもとに鎮守の荒神が祭られ、古伝では何人たりともその神前を乗馬等の乗り物のままで通行すれば祟りがあると聞いて、信長は立腹のあまり荒神(木像)の頭部を切り落とした(應昌寺境内の祠に現物あり)ところ、即座に激しい腹痛をおぼえて、さすがの信長もざんげせざるを得なかった云々、の伝承があります。
幹周9m、樹高18m、樹齢は推定600年とされています。



⑨八幡神社のスギ（米原市 西山）

豊臣秀吉は、まだ長浜城主であった頃から、武神であったこの神社を崇拝していたが、大坂城に入城後、安産祈願をしたところ、無事に秀頼が誕生したことにより、そのお礼として薩摩(鹿児島県)よりスギの苗木を取り寄せて、この地に植えて杉並木となったと伝えられています。別名「豊公薩摩大杉」と言われています。幹周は5.5m、樹高は26m、樹齢は約400年とされています。



⑧大杉神社の神木（彦根市 武奈町）

大杉神社の正式名は、「北原(きたら)竜宮・大杉竜王」です。伊邪那岐命(いざなぎのみこと)がこの武奈山に御鎮座され、その後、霊仙(日本で唯一の三蔵法師)がこの地にあった大杉の幹に注連縄を張って三神をお祀りしたという。
この大杉は、樹齢2000年とも言われ、神様の存在を実感できる神秘的な存在です。幹周6m。



⑦南花沢・北花沢のハナノキ（東近江市 南花沢町・北花沢町）

ハナノキはハナカエデとも呼ばれるカエデ科の落葉高木で、4月に紅色の花が咲くことからこの名がついています。日本固有種で、自生地も限られている希少な樹木ですが、南花沢のハナノキと北花沢のハナノキ(写真:幹周3m、樹高8m)は、自生する最西端ということで、国の天然記念物にも指定されています。
その昔、聖徳太子が百済寺を建立した帰りに、昼食の箸を地面につきたてられたものが木となったと伝えられており、古くより神木として敬われてきました。



琵琶湖の明日を見つめて

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所

〒520-0243 滋賀県大津市堅田2丁目1-10
TEL.077-574-0680 FAX.077-574-1739

湖北管理所 〒521-0011 滋賀県米原市中多良1-2
TEL.0749-52-5160

湖西管理所 〒520-1623 滋賀県高島市今津町住吉1-3-4
TEL.0740-22-1500

湖南管理所 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091-58
TEL.077-568-4102

<http://www.water.go.jp/kansai/biwako/>

琵琶湖管理

検索

